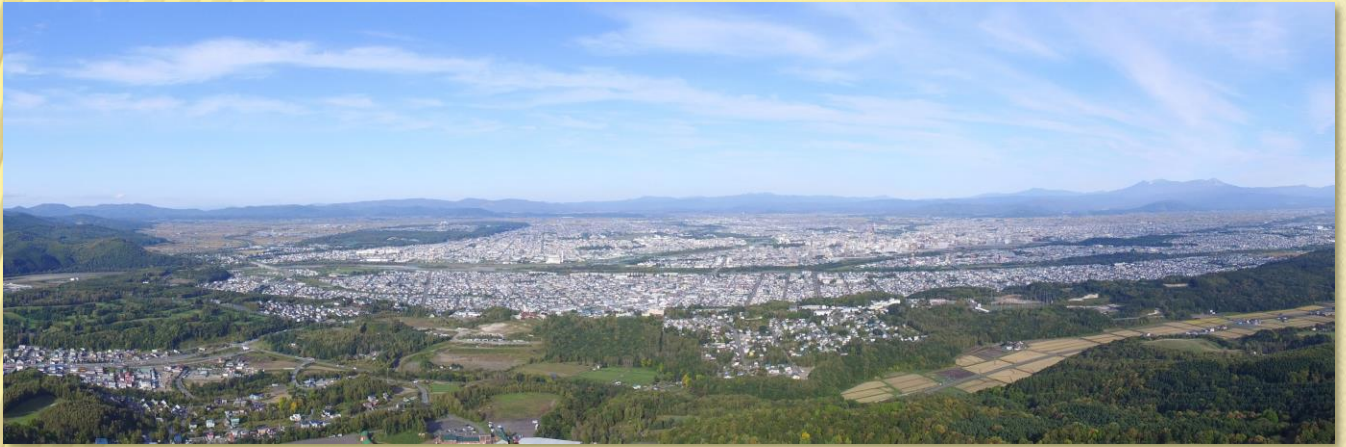




サンタプレゼントパークのニコラスタワーからの上川盆地の眺望

それは、十勝岳火山群付近で複数の割れ目から多くのガスを含んだ大規模な噴火が発生し、噴出源にはカルデラを生じたと思われます。また噴火と同時に火砕流が発生し、高温のガスと粉体の混合物がかなり濃密な状態で地表を這うように高速で流れ、陸化し低地帯であった上川盆地一帯をあっという間に200m以上を埋め尽くしたと考えられています。そのとき、行き場を失った石狩川などの河川水によって、上川盆地は一時的に湖のような状態になったと考えられます。

噴出源に近い美瑛町付近では、噴火時の火砕流堆積物の高温によりそれ自体が溶結してできた溶結凝灰岩となり、現在その露頭があちこちで見られます。美瑛軟石はこの時に作られたものが、倉庫や駅舎などの建築材料として使われました。火砕流堆積物の末端付近にあたる旭川市の台場近辺では細粒の火山灰が見られます。その火山灰を採取して今でも私たちの生活の中で使われています。

現在、神居古潭峡谷から西側の深川方面にはこの火砕流堆積物を見ることができません。既に神居古潭構造帯が上昇し、その行方をさえぎったと思われます。

火山が発達し、山々が形成されることに伴い、河川も発達していきます。上川盆地を何度も埋め尽くした火砕流堆積物あは河川によってすぐに浸食されますが、浸食をのがれた場所は神楽台(神楽岡や緑が丘)、近文台(春光台)のような台地として残っています。旭川は、四方を山々に囲まれた盆地(実は複合扇状地でもあります)になっていること、4つの大きな河川が合流することで盆地全体にわたって旭川層と名付けられる土砂が厚く堆積しました。それらは現在、私達の生活に欠かすことのできない、良質で豊富な地下水盆を形成しているほか、その表層部は生活の場として私達に提供してくれています。

(学芸員 向井 正幸)

地学シートHP



旭川市博物館HP



地学Sheets

Asahikawa City Museum